

■普及所から(32)■

転作作物として有利な

大豆をつくる

大豆は、水田利用再編対策の主要作物として栽培されるようになり、五十八年度は約一二〇万で作付けされています。

跡作の秋大豆では、現行技術でも十ヶ当たり三〇〇kgは、管理のポイントさえ把握すれば十分可能です。その点で、今後定着性の見込まれる作物といえましょう。



市内での栽培は、大部分がタバコ極早稲の跡作が主体ですので、七月下旬～八月上旬は種の、栽培の注意点を述べてみます。

◎栽培のポイント

①早まきほど良いが、晩眼は八月十日ごろとする。

②品種は、通常のは種期では「フ

機械化の導入で、高収益も期待できる大豆栽培

パソコン・水泳の公開講座

7月24日から工専で

■パーソナルコンピュータ  
日時：7月30日(月)～8月3日(木)までの5日間、毎日午後1時～5時  
場所：工専電子計算機室  
対象：BASIC、フォートラン等を学習したことのある人、または同校開催の公開講座「パソコンコンピュータ入門」を受講したことのある人で一般社会人が対象。  
講師：工専の星加陽三教授ほか。  
申し込み方法：同校所定の参加申込書に、受講料(三千円)とテキスト代金(千七百円)を添えて、工専学生課教務係まで。

■水泳教室  
日時：7月24日(水)～30日(火)までの7日間、午前11時～午後2時  
場所：工専プール  
対象：小学一・二年生、男女は問わないが泳げないものに限る(ただし父兄同伴のこと)。  
指導内容：①親子教室の形をとる②初心者段階指導③泳法指導④親に対する救助法の指導  
講師：工専の体育教官と外部講師

申し込み期間：7月16日(月)～20日(金)、午前9時から受け付け。  
受講者数：先着二十人  
申し込み方法：同校所定の参加申込書に、受講料(三千円)とスポーツ傷害保険料(三百二十円)を添えて、工専学生課教務係まで。  
申し込み期間：7月12日(木)～16日(月)まで。受け付けは午前9時から。  
受講者数：先着三十人  
※公開講座についての問い合わせは、同校学生課教務係(☎3141内線350、351)までどうぞ。

③は種量、栽植密度  
◎七月下旬まき  
十ヶ当たり五ヶ六、五〇ヶ  
×一八ヶ程度  
◎八月月上旬まき  
十ヶ当たり八ヶ十、三五ヶ  
×一八ヶ程度  
④除草  
は種後、土壌表面の乾燥する前にサターンパアロ乳剤(十ヶ当たり六〇〇～八〇〇ccを八〇～一二〇ℓの水に希釈)を噴霧機で均一に散布。さらに、種後十五日～二十五日ごろに、クサガード水溶剤(二〇〇～一五

〇ヶを一〇〇ℓの水に希釈)をむらなく散布する。  
⑤は種前にベンレートTの乾種子粉衣を忘れずに行う。  
⑥施肥は全量元肥とし、タバコ等の跡作は無肥料、早稲跡はチッソ成分十ヶ当たり二ヶを施用する。  
⑦秋大豆に最も害を及ぼすのは、ハスモンヨトウである。特に八月中旬から九月上旬にかけては被害が大きいので集中的な防除を要する(薬剤はランネット水和剤二〇〇倍など)。  
以後は、着莢期にスミトップ粉剤で、ハスモンヨトウと紫斑病の防除、莢肥大期にスミチオン粉剤または乳剤一〇〇〇倍で、ハスモンヨトウ・カメムシ類、

さらに、子実肥大期にバイジツト粉剤または乳剤一〇〇〇倍でカメムシ類の防除を行う。  
以上が管理の要点ですが、価格も米価に近い水準にあり、所得は奨励金を除いても二番稲以上のものが期待できます。また組織的対応を行えば、機械化体系の導入もできる等のメリットもあります。  
大豆栽培について再考し、有意義な土地利用を行いましょ。【南国農業改良普及所】

